

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年11月26日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105180
法人名	株式会社ヘルスネット徳洲会
事業所名	グループホーム山田の里
所在地	鹿児島市山田町44-3 (電話)
自己評価作成日	2021年10月18日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和 3年 11月 22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍が続き、活動範囲が狭くなった利用者様の生活状況を見て、利用者様の気分転換を図る為、ホーム内にての活動内容を増やしたり、又行事など開催する際は、現在も外部からのボランティアを招く事が出来ない為、少しでも利用者様に笑顔で暮らして頂きたいと願い職員が一丸となって創意工夫、準備行っています。行事当日は手品や楽器演奏披露など利用者様と共に行い、笑い声が室内中響くなど楽しい時間を提供しています。当施設は、認知症対応型施設グループホームであり、認知症に対する知識を深める機会を増やし、職員の質の向上を目的として出来るだけ国家資格である介護福祉士取得を目指してもらえる様、施設としても声掛け促しを行い、又、実務者受講の場合、費用の半額を事業所負担とし資格取得が出来る様経済的支援も行っています。介護職員が不足している昨今、今年度は、高卒生1名入職可能となり、福祉の勉強に取り組んでもらっています。若いスタッフが無理なく介護業務を覚えて行けるよう先輩介護職員も穏やかな環境作りに協力的でアットホームな環境の中、若者の育成が来ています。病院外来受診は、基本ご家族様引率、受診になっていますが、都合上、引率が出来ないご家族様からの依頼があった場合、相談に応じています。ご家族様へ月1回「山田の里便り」にて1ヶ月間のバイタル(血圧・脈・体温・spO2)、体重、食事・水分量、排泄(排尿・排便・便秘日数)、服薬の状況で身体的な情報、又利用者様の一月間の報告生活状況をお知らせしたり、活動写真などお送りしてご家族様にホーム内生活を詳細に伝達しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市谷山支所から車で10分程離れた閑静な山田地域の一角に平成18年に開設されている。周囲はスーパーマーケットや個人住宅に囲まれ、近くには保育所や小・中学校、郵便局、医療機関等があり利便性は十分で、幹線道路から一筋入っていることで気になる騒音等も感じない環境である。2階建ての各階に1ユニットずつ設置され、共有部分及び居室共にバリアフリーの余裕あるスペースが確保され、また、敷地には多種の草花や樹木等が植えられて、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。

管理者及び職員は、理念に沿って利用者の尊厳や想い、特性等を大切に、その人らしく健康で穏やかな生活が過ごせる支援に日々努めている。日頃の会話や面会、電話等で利用者や家族の意見、要望の汲み取りに努め、全体会議やフロア会議等で協議して、心身の状況や自己決定を尊重した利用者主体のケアに取り組んでいる。家族との連携にも十分配慮しており、本調査に係る家族アンケートからも満足度や信頼度の高さが窺える。

管理者及び職員は、日頃から気軽に意見を言い合える信頼関係を構築しており、日常業務の中や申し送り、フロア会議等で運営やサービスの高上に向けた意見、要望を協議して改善に繋げている。勤務シフトには個人的事情や有給休暇の取得促進も配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでおり、計画的なホーム内の研修に加え外部研修も実施してスキルアップに努めている。法人による給与体系や外部研修受講時の経費(受講料、資料代)の助成制度も構築されて職員のモチベーションに繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	一人ひとりに寄り添った介護や支援が出来るよう研修や話し合いの場を設けています。又、その人らしく暮らせるように環境整備にも力を入れています。スタッフには「理念」を書面で配布していますが、今後、定期的に理念の唱和を行いスタッフ全員が理念に沿ったケアが継続出来る様努めて行きます。	利用者が、「家族や地域との関わりを継続しながら一人一人の思いや能力等を大切に、その人らしい穏やかな生活の支援」を理念に掲げており、理念は玄関や事務室に掲示し、ホームのパンフレットにも掲載して共有を図っている。全体会議等でケアの振り返りや意見交換を行って理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設（H18年3月15）時から、町内会に加入しています。コロナ禍の為、外出自粛が続いていますが、秋には近隣公園へドライブに出かけコスモスの花園を車中で眺める事などで季節を感じて頂いています。又、精神的不穏で買い物に熱望される方に対しては、マスク、手指消毒など安全面強化し、スタッフがマンツーマンで近隣の商店へ買い物支援なども実施するなど地域住民の一人として生きている事を実感して頂く機会を可能な範囲で設けています。このような活動から地域の方々にもホームの存在、利用者様へのご理解などが得られ暮らしやすい環境を整えています。	開設時より、地域との結びつきを大切に日常的な交流に努めてきており、自治会に加入して地域行事への参加や保育園児との交流、実習生やボランティアの受け入れ等、積極的に取り組み、また、ホームの行事には地域の人々の参加が得られる関係が構築されているが、現在はコロナ禍のため外出、外食、ボランティア等の受け入れやイベントへの住民参加は控えている。家族との面会や園庭周辺の散歩、感染症予防を徹底しての買い物（個別支援）、ドライブによる季節の花見を実施し、住民から寄せられる相談への対応等は可能な限り受け入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ禍の為、事業所としての地域貢献が出来ていない状況の中、管理者が「認知症等見守りメイト養成講座」を受講し、地域の為に少しでもお手伝い出来ないかと取り組みを開始しているのが現状です。将来的には多くの職員、スタッフに受講する機会を設け、認知症に対する知識を深めたり、一人でも多くの人が地域貢献できる事を目指しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナ禍の中、運営推進会議も感染予防の観点から、ホームでの集合開催を見送っていますが運営推進委員の方々には、月1回発行の施設便り「山田の里」等を用いて運営状況を報告行っています。又、書面上にて助言など電話連絡出来るようお願いしています。委員の方が時々、玄関先まで来ホームされる事もあり連携が取れています。	従来、会議は家族や民生委員、地域包括支援センター職員等が参加して定期的（隔月毎）に開催してきたが、コロナ感染症の予防のため、現在は一堂に会しての会議開催は中止し、ホームの現状や利用者の状況、改善点等を職員で協議して改善に取り組んでいる。会議の資料を委員に送付しており、一部の委員は玄関先に様子窺いに来訪して下さる等連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空床状況報告や各研修への積極参加を行っています。又業務上疑問を感じたり、判断に迷った時など、行政に連絡しアドバイスを頂き、疑問の解消を図り、意思疎通を図れる様、取り組みを行っています。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告に関すること、運営やケアに係る相談、感染症予防に関連する協議等を行って指導や助言をもらい、また、生活保護を受給中の利用者（6人）については担当ケースワーカーと処遇等についても密に連携を図るなど、市担当者とは日頃から協力関係を築いている。市主催のズームによる会議や研修にも積極的に出席してサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議にて身体拘束の院内勉強会をしたり、管理者は、外部（県社会福祉協議会）等の研修会に積極的に参加し、拘束が虐待に繋がる、基本的人権侵害に当たると言う認識を他のスタッフに伝え、拘束の3原則に反しない様取り組みを行っています。	身体拘束や権利擁護、虐待をしないケアの取り組みについては計画的な研修の実施やリモートによる外部研修への参加で周知を図り、全体会や毎日の申し送り時に意見交換も行って認識を共有している。身体拘束適正化委員会も定期的（3か月毎）に開催して拘束の無いケアに取り組んでいる。特に言葉による拘束については常に留意しており、不適切な発言には、その都度注意し合うなど日頃から改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、身体拘束などについて定期的に研修会を行い職員全員が知識を深めると共に日々のケアにおいて、あざ、内出血痕がないか、特に入浴・更衣時等、観察力を高め早期発見に取り組んでいます。管理者も、高齢者虐待等の研修等に参加し虐待が見過ごされない様、取り組んでいます		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員とも「権利擁護に関する制度」の必要性を感じており、外部研修、今後院内でも取り組みを始め、制度の理解を全職員で図っていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、プライバシーに配慮しながら、家族様に理解出来る様、読み上げ、単元毎、疑問点やわかりにくい所等、家族様のペースに合わせて説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様から、電話、来ホーム時、意見・要望があった場合、必要に応じてリーダー会議を行い検討や改善策を講じています。 直接、言えない家族様や外部の方々には、匿名で記入できるよう「意見箱」を玄関入口に設置し、より良い運営が出来る様取り組んでいます。	利用者の思いは日頃の会話や表情、サイン等で汲み取り、家族からの意見や要望は面会や電話、LINE、意見箱の設置、「山田の里便り」にコメントで利用者の状況を伝えながら把握に努めて改善に繋げている。特に「山田の里便り」には、各利用者の食事や排泄、バイタルの状況等の資料を添付して実態を共有しており、家族の安心に繋がっている。本調査の家族アンケートの結果にも感謝の言葉が複数寄せられている。現在、コロナ禍のためイベントへの家族参加は控えてもらっているが、面会は、事前に予約を受けて感染予防を徹底しながら玄関の窓越しで実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催される職員会議やフロア会などで職員が自由に意見を出し合い、良い意見は十分に検討し運営に盛り込んで行きます。言いづらい意見は、日常時主任や副主任へ伝え再度、検討する時間を設ける等で全職員が運営に携わって行けるよう環境を整えています。	管理者及び職員は、日頃から気軽に意見を言い合える信頼関係を構築しており、日頃の業務の中や申し送り、フロア会議、全体会議時に意見や要望を把握し、定期（年2回）の個別面談に加え、必要に応じて個人面談も行って改善に取り組んでいる。ケアに関する助言やスキルアップを図る研修を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに努めている。法人の給与体系や外部研修参加時の受講料等の助成体制が確立されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>本社を中心にして、待遇面・福利厚生等の改善を行い、働きやすい環境作りに取り組んでいます。職員のストレスの軽減や体調面のフォローする為に有給消化に向けての取り組み、希望休などが取れやすい様、勤務体制を整えています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>現場職員のレベルアップに繋がる様、各個人の、力量等を総合的に判断し研修参加に取り組んでいます。勤務に支障をきたさないよう配慮しながら初任者研修、実務者研修受講を職員に勧め、現在3名が介護福祉士受験前の受講に励んでいます。介護福祉士受講（実務者研修含む）の際は、経済面の支援：助成金も行い職員育成に力を注いでいます。今後は、フォローアップ研修・介護技術動画などのネット研修を取り入れ職員の資質向上に取り組めます。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍の中、交流という事自体、自粛してましたので、感染者数が落ち着いて、安心した気持ちで外部との交流が図れる様取り組んでいきたい。現在は、ネットにて他施設（グループホーム）の園内活動などを参考にして活動内容をアレンジして取り入れるなど工夫しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴染みの関係が築ける様に、本人の表情・言動等に注意しながら、生活歴等を参考にしながら本人が興味を抱いてくれそうな話題など、雑談しながら、不安な事や、思ってくれることが自然に話せる様、取り組んでいます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と話しやすい相談しやすい雰囲気作り、情報の共有を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の意向・要望を聞き、本人様の状態、家族様が本人様にどのようにして暮らして行きたいか、どうありたいかを、一緒に考えております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に穏やかに、安心した気持ちで過ごせる様、ご本人様の意思を大切に、ケアする立場ではなく、お互いに、居心地の良く生活してもらえる様、コミュニケーションを図っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族様の想いによりそいながら、お互いの良い面をお伝えし、良好な関係性が保てる様、取り組んでおります。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍前は、親しい友人・知人が気軽に訪問し、楽しい時間が過ごせる様、又、電話等、本人の体調不良時以外、取次ぎを行い外出・外泊も家族様の都合にあわせて対応しておりました。現在のコロナ禍が以前の状態に戻った時は、前記のように取り組みます。現在は、事務所前にてガラス越しの面会が出来る様になり幾分か関係継続維持の支援が可能になりました。	利用者毎の馴染みの情報を共有しており、通常は周辺の散歩や買い物、通院、一時帰宅、外食、墓参等を家族の協力を得ながら支援しているが、現在コロナ禍に配慮して外食、外泊等は控えてもらい、家族との交流は短時間の面会や電話、手紙の取り次ぎによるものとなっている。日光浴を兼ねての周辺の散歩では地域の人と挨拶を交わし、農産物等を頂く等の交流は日常的に継続し、ドライブによるコスモスの見学や隣接のスーパーマーケットでの買い物など、利用者の状況に配慮した個別の支援にも取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情がさえない、口数が減った不満な感じが見て取れるような時は、寄り添う気持ちで話を傾聴し不安の解消に努める。又、座席の配置等、利用者様同士の関係性に配慮して、支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	暫くして、ご家族様の様子をお伺いさせていただき、お困りの事がないのか連絡を取り、ご家族様の想いを受け止め、相談毎に対応しております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず、ご本人に此处でどの様に暮らしたいのか、暮らして行きたいのかをお聞きし、ご本人の気持ちに寄り添える事が大切だと思っています。聞き取りが困難な場合は、ご本人様の立場になって検討して行きます。	利用者の思いを日頃の会話や独自のサイン等から汲み取り、フロア会議や申し送り等で協議して利用者主体の生きがいのある暮らしの支援を、家族の協力も得ながら取り組んでいる。利用者が希望する趣味や食材の下処理、テーブル拭き、洗濯物たたみ、床のモップ掛け等の取り組みを、心身の状況や意欲等に配慮しながら個別に支援し、衣服やおやつ、飲み物等は利用者自身が選択するような語りかけを行うなど、達成感や自己肯定感が得られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人お一人の生活歴等を大切にし、居心地よく過ごしてもらえるよう生活環境を自然に馴染めるよう充分配慮しています。同郷の方がいましたらフロア席など隣席にして昔話しが出来るよう座席配置等、工夫しております。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人がどの様にここでの生活を送りたいのかを意向としてお聞きしスタッフと情報共有しながら、ご本人の残存機能に着目しながら、実施してまます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様を中心とした介護計画：ご本人さんの希望や思い、ご家族様の思いなどの聞き取り健康面からは、主治医からの医療情報提供などにより心身状態の把握に努め、全情報を基に本人さんの暮らしやすい生活を営む為に課題とケアのあり方を職員で話し合い作成しています。入院などにより見直しが必要な場合は、再度、ご本人、ご家族、主治医、関係機関に意見を聞きながら変更を行っています。	ケアプランには、利用者や家族の意向を丁寧に聞き取り、主治医や看護師の指示やカンファレンス及びモニタリング時の職員の意見等を基に、残存機能や習慣、趣味等にも配慮した利用者主体の介護計画を作成している。利用者の状況変化時には実態に沿った計画に変更し、利用者や家族の理解も得ながら改善を図るケアに取り組んでおり、実施状況は申し送りやケース記録、介護日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を大切にし、職員各自、気づき、状態の変化の記録を、記入し利用者の情報共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にとってより良いサービスの提供という視点から、かかりつけ医、訪問看護、薬局、歯科、福祉用具、家族様等と連携を取りサービスの多機能化に取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周りの病院、地域包括、施設等を把握しご本人の暮らしの一助になればと把握を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様の意向をお聞きし要望に応えられる様、各かかりつけ医と相談しながら執り行っております。状態が変わって看取りになった場合、看取り対応出来るクリニックに引継ぎを行い継続したケアの構築を図っています。	かかりつけ医は本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な通院や訪問診療が実施され、他科受診も家族と連携しながら同行している。協力医療機関との医療連携の体制を構築し、看護師も週1回来訪して衛生や健康管理に取り組んでいる。健康状態は毎月家族にも詳細な資料で報告しており、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、職場内には看護職員は在籍していないが、訪問で来られる看護師等に、日中、夜間等の情報を伝え指示、アドバイスを頂いて必要時には医療連携を取り病院受診などがスムーズに出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、相談員を中心として情報交換を密に行い、家族様とも情報の共有を図り、早期の受け入れが出来る様、取り組んでおります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、関係医療機関、家族様と情報の共有を図り、家族様の想いを関係するスタッフ一同で共有し、事業所で出来る事、出来ない事を説明し理解を得てもらいチームでケアを一体となっていきたいと思っております。	重度化や看取り対応の詳細な指針を整備し、利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ており、「事前意思確認書」で方針を共有している。入所後も利用者の状態変化に応じて説明と意向確認を行い、重度化した時点で主治医より病状説明があり、家族の意向を十分確認しながら、主治医や看護師と連携して可能な限り希望に沿った支援に取り組んでおり、本年度は1件の看取りを実施している。看取り後は全職員から振り返りや改善へのアンケートを実施して改善に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えての職員への応急手当、初期対応への訓練、研修が足りてないので、研修等へ参加し皆が実践出来る力を高めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練（内1回は夜間想定）は実施して。利用者が避難出来る方法とか周知出来てない。地域との協力体制も不十分である。</p>	<p>災害発生を想定した訓練を年2回（一回は夜間想定）実施し消防署の協力も得られている。通常は住民の訓練への参加も得られているが、コロナ禍に配慮して今回はホームの利用者と職員で安全確保を視点に避難や通報、消火等の訓練を実施している。日頃から連絡網の整備や避難経路を確認し、災害の報道を基に意見を交わすなど防災への認識の共有に努めている。スプリンクラーや自動通報装置が設置されており、災害時の水や保存食等の充実を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には全員さん付でお名前を呼ばせて頂き、利用者様の意思を尊重し、納得してもらえる様、声掛け等、行ってる。居室にてお話をお聞きしたり、トイレ介助時等、ドアを閉める、居室訪問時、ノックにて訪室。	人格や誇りを損ねる事の無いように研修の実施やケアの振り返り、意見交換等で認識を共有し、利用者の生活歴や心身の状態、習慣等にも配慮しながら自己決定を尊重した語りかけに努める等、工夫してケアに取り組んでいる。居室やトイレ、浴室等はプライバシー保護に配慮した構造になっており、衣服の着脱や排泄、入浴時の声掛けは羞恥心にも配慮して適切な声のトーンや言葉遣いに努めている。利用者に係る記録等は事務室のキャビネットで適切に管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の想いや希望を言いやすい雰囲気作り、馴染みの関係性を築き、気軽に自分の意見・想いが出せる様、取り組んでいます。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間もご本人様の体調、希望等に応じ対応しており、ご本人様が居室で休まれたい、横になりたいと言われれば、ご本人の意思を尊重し支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	意思の表示が出来る利用者は、自分が着たい洋服を選んでもらい、自己決定にて実行してます又、2ヶ月に1回の理美容時には、好みに応じてカットを行ってる。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、違うメニューを提供し、食事形態もそれぞれ、利用者様の嚥下状態等を加味しながら、刻み、トロミ、ミキサー食を用意し対応しています。	好みや栄養バランス、形態、季節感、疾病に伴う摂取制限等に配慮した1週間ごとのメニューを作成し、利用者も簡単な下処理やテーブル拭き等を楽しみながら一緒に調理している。食事は利用者の一番の楽しみで関心も高いことから、季節の行事食や誕生日の希望食、手作りのおやつ、園庭でのお茶等、食事が楽しみとなるよう日々工夫しているが、コロナ禍に配慮して外食や家族との会食は自粛中である。各利用者の食事や水分の摂取状況も把握し、口腔ケアもプランに反映してケアしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎食後確認し、摂取量が不足している場合、補助栄養食品を検討したりして各自の健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜に訪問歯科に入ってもらい、お口の中の状態確認を行い、口腔内の清潔保持、トラブル防止を図っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排便・排尿等、記録に入力し、各自の排泄パターン、習慣化の把握をスタッフで情報共有し、トイレでの排泄・自立に向けて、スタッフが定期的に声掛け・促しを行い自立に向けた支援を行っています。	各利用者の排泄パターンをチェック表等から把握し、心身の状況や習慣にも配慮した声掛けで可能な限りトイレでの排泄を支援しており、ポータブルトイレの利用者は現在はいない。利用者の状態に応じた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、介護用品の減少などの効果がみられている。便秘の予防は、主治医にも相談しながら繊維分の多い食材や乳製品、水分の摂取及び運動量等に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を日々チェックし、排便見られない時、ヨーグルト、水分を多めに摂るとか、又、下剤の量をコントロールしたりとか工夫をしながら取り組んでおります		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者様と相談しながら、出来るだけ希望に添える様に、曜日、時間等、配慮してます。本人様から、今日は入浴したくないと訴え等がありましたら、曜日変更等、工夫しています。	基本週2回の入浴を清拭も取り入れながら支援しているが、必要に応じその都度、シャワー浴で清潔を保っている。入浴の順番や温度、時間、習慣、同性介助、好みのシャンプー等は利用者の意向に沿って柔軟に対応し個浴でゆっくり楽しんでもらっており、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には、無理強いしないで時間の変更や声かけ等を工夫し、利用者の意向を汲み取りながら保清に努めている。		
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで生活出来る様、なるべくご本人の意向にあわせて、配慮しております。			
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書にて、薬の目的、副作用、用法、用量についてスタッフ各自確認・理解を得ています。又、飲みにくい場合、トロミを付けるなど工夫しながら、服用出来る様、努めています			
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事、イベント、季節感を感じて頂ける様、毎年、外出し季節の移ろいを感じてもらっています			
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日とか、施設の周りを負担の無い程度に、職員と一緒に散歩したり、施設前の駐車場にてテーブル、椅子を使用して、飲みものとお菓子を食べたり、皆で歌を歌ったりしています	日常的に周辺の散歩や買い物、園庭でのお茶や懐メロを歌うこと等を体調等に配慮しながら実施しているが、コロナ禍に配慮して、原則、一時帰宅、墓参、外食、会食等の外出は控えてもらっている。地域のイベントの殆どが中止され、ホームの行事も十分には実施できない状況であるが、慈眼寺公園にドライブによるコスモスの見学を実施し、法事や葬式への参列は、利用者にとっては大事なことで理解して感染予防を徹底しての参加を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	基本、お金の所持は家族様又は本人管理でお願いしています。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	ご家族、知人、友人等、電話の取次ぎを行い、利用者様から電話を掛けたいと申し出があれば事務所の電話にて連絡を取っています。通話可能な方は携帯の持ち込みは可能です。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節感を感じて頂ける様、季節毎に廊下の壁などを使用して壁紙などを用いて対応しています。	利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは中庭も設けられて明るく余裕あるスペースが確保されており、動線や利便性に配慮して手すりやテーブル、ソファ、テレビ等が設置されている。随所に活花や観葉植物、利用者の作品等が飾られ、台所からは調理の音や臭いが伝わって和やかな雰囲気である。清掃や空調、衛生管理等が徹底され、不快に感じる音や臭いもなく、利用者は日常的に園庭の樹木や草花を愛でたり、回廊式の廊下で歩行を楽しんだり、穏やかな日々を過ごしている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ソファを配置して、くつろげる空間を確保したり、中庭を設ける事で、フロア内に居心地の良い空間を提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、今まで使われていた馴染みの家具等、持ち込み大丈夫なのだと説明してます。出来るだけ、今まで生活で使われてたものを持ち込み使う様、取り計らってます。	居室はフローリングに腰高窓の構造で明るく、エアコン、ベッド、タンス、洗面台が設置してあり、利用者に確認しながら整理整頓を支援している。利用者が戸惑うことの無いように、入口には写真入りの名札を掲げるなど工夫している。利用者は自宅で愛用していたテレビや楽器（ギター）、寝具、小物、家族写真等を持ち込み、また、自身の作品も飾る等、家庭同様に居心地良く過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内の壁に手すりを付け、安全に手摺を使って移動出来る様、配慮してます。椅子も肘付椅子にて転落防止を図ってますトイレの場所がわからない利用者様の為に張り紙をしてトイレにスムーズに行ける様工夫してます		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない